

教授 吳 尚浩 (Naohirio GO)

研究シーズ

【環境・交通】 【防災・くらし】 【社会】

専門

公益学/環境社会学/地域づくり論

研究キーワード

多様な主体の共創による自然保全と地域づくり/地区防災
海洋ごみ問題/海岸林保全/環境保全型農業/ボランティア



研究テーマ

多様な主体の共創による自然の循環的利用・保全と
公益的な地域づくりのデザイン

研究の概要

私は、公益学や環境学の視点から、国内外をフィールドに「多様な主体の共創」による持続的な「自然の循環的利用・保全」のあり方と、それが「内発的な地域づくり」の活性化につながっていくプロセスについて研究をしています。特に、山形県の庄内地域では2001年より、海岸林保全、海洋ごみ問題、飛島の島づくり（離島振興全般、住民と島の応援団の力を活かした話し合い・実践の場づくり、地区防災）、生態系保全型農業などをテーマに実践と研究を積み重ねてきました。

現在では、山形県海岸漂着物対策推進協議会会長、出羽庄内公益の森づくりを考える会会長、とびしま未来協議会代表、美しいやまがたの海プラットフォーム協働事務局、東北公益文科大学・とびしま未来研究所長、東北公益文科大学・地域共創センター防災・環境部会長などの立場から、多様な主体による共創のための協議会・ネットワークを横軸、課題に対する解決策の模索と長期の共通ビジョンづくりのための計画を縦軸として、地域が内発的、持続的に自然環境を保全し、地域づくりの方向性を見いだしていくための活動を推進しています。

特に近年は、

- ・山形県漂着物処理対策推進の一環として、長期モニタリング調査の分析に基づき、改善を促進すべき海岸の選定や新たな清掃活動プロジェクトの推進、回収に係る人的な資源配分の見直し
- ・クロマツ海岸砂防林における松くい虫被害拡大の対応策として、戦略的に広葉樹を積極的に導入した新たなゾーニング計画の策定や住民参加のモデル事業の推進
- ・飛島における地区防災の取り組みや佐渡・粟島・飛島の三島交流による内発的地域づくりの活性化

などに取り組むことで、地域住民・NPO・行政・企業・教育機関が共創して地域の自然保全と地域づくりを活性化し、新しいコモンズを再構築する可能性を庄内の実践を中心に国内外に発信しています。また、地域の小中高、全国の大学生と連携した環境教育やボランティア活動の実践も支援しています。

セールスポイント

国内の制度改革も視野に入れながら「自然の循環的な利用と保全」を「公益的な地域づくり」につなげるための研究と実践に取り組んで来ました。そのためには、共同管理体制の構築により、地域資源を住民主体で継続的に保全する「内発的なシステム」づくりが鍵となります。住民の内発的な意識を盛り上げ、多様な関係者が「共に考え、実践する場」としての協議会やネットワークの構築によって、豊かな自然資源をどのようにして守ることができるのか？また地域資源を活かした元気な地域づくりはどのようにして可能になるのか？などについて、皆様のサポートをさせていただきます。

想定される用途・応用例・活用例

- ・多様な主体による連携・共創のあり方についての共同研究や産学官連携
- ・自然環境保全や地域づくりのための協議会・ネットワークづくり、各種計画策定とアクションプログラムづくりのための助言・サポート
- ・自然環境保全、地域づくり、ボランティア活動の立ち上げ、推進に関するサポート